



# 小学部 国語科 一題材の実践と振り返り



題材名 『お宝探偵団!』で、場所や位置を聞き取ったり、伝えたりして宝物を集めよう

授業者: 萱部 沙紀

## 学習指導要領の段階と内容

小学部3段階【聞くこと・話すこと】

### 題材目標

**知・技** :イ(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報の関係について理解すること。

**思・判・表** :Aウ 見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。

**学 び** :言葉のもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

|       |  |
|-------|--|
| 知・技   | 『お宝探偵団!』で宝物を探す時、宝物の位置を伝えるためにイメージする順番がわかり、建物、部屋、物、位置の順に言葉カードをはなし手帳に貼る                             |
| 思・判・表 | 校内に隠した宝物の位置を伝える時、宝物の位置を特定するために必要な視点と言葉の順番を考え、伝え方を判断し、建物、部屋、物、位置の順で話したり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする |
| 学 び   | 宝物の位置を繰り返し正しい順番で伝えたり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする   |

## 授業づくりの手順

前題材までの到達状況から表出像を列挙する

列挙した表出像を段階化する

段階化した表出像の一覧から、グループの在籍生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する

指導内容の範囲となった表出像に必要な知識及び技能を列挙する

各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために知識及び技能の内容を細分化・段階化する

細分化・段階化した知識及び技能の一覧と題材終了時までの表出像を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する

実態把握の結果から、中心として取り上げる知識及び技能を決定する

知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

## 教材と仕組み

- 宝物の位置を友だちに話して伝え、宝物を探す
- 探し出した宝物は、好きなイラストを分割したピースと交換し、2人で協力して宝物を全て集めてイラストを完成させる



## 観点別評価

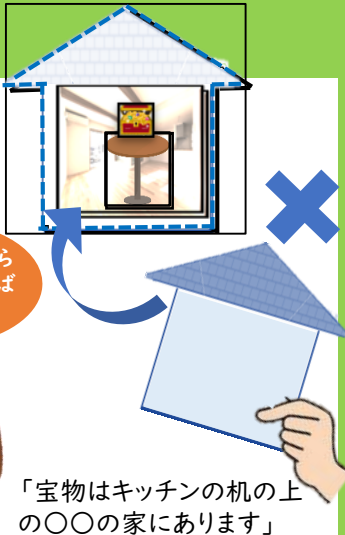
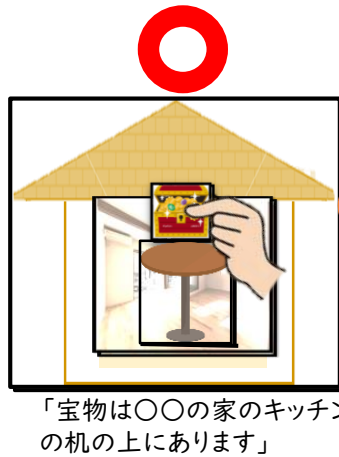
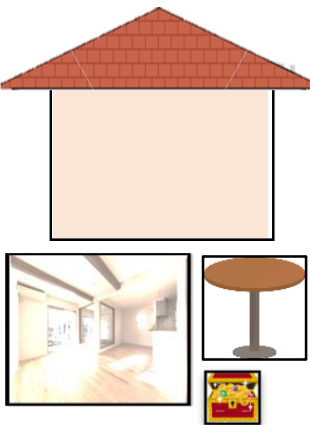
|       |  |
|-------|--|
| 知・技   | 宝物を宝さがしマップや宝さがしハウスに隠した後、その位置について「〇〇さんのいえ・リビング・ソファ・うえ」などと建物、部屋、物、位置の順にそれらを表す言葉カードをはなし手帳に貼ることができた  |
| 思・判・表 | 校内に宝物を隠した後、その位置について「宝物はポプラの女子トイレの棚の上にあります」など建物、部屋、物、位置の順にそれらを表す言葉カードを話すことができた。「宝物は中学部の椅子の下にあります」と部屋の視点が抜けたまま伝えた時に、友だちが「(部屋の名称は)どこですか」と問うと、「プレイルームです」などと部屋の名称を答え、不足する視点についての問いに正しく答えることもできた |
| 主体的な姿 | 宝物の位置について繰り返し正しい順番で伝えたり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする姿が見られた  |

## ポイント

伝える視点の順番を理解するために・・・

### 『順番だんだんシート』

建物、部屋、物、位置を表す言葉の伝える順番を、操作を通して考えることができるように、それらの言葉が表す物同士の実物の大小関係に則ったイラストシート。大きなイラストシートから順に重ね合わせることで、伝える視点の順番を理解できるようにした。



## ポイント

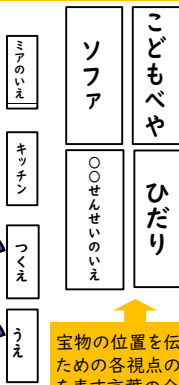
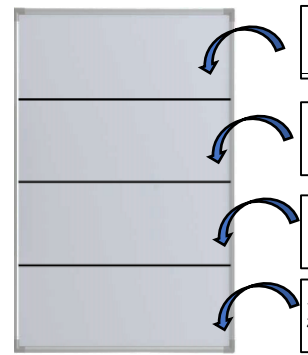
伝える視点の順番を整理して話せるように・・・

### 『はなし手帳・言葉カード』

宝物の位置を伝えるために必要な視点とその順番を整理して伝えることができるように、各視点に含まれる言葉を視覚化した言葉カードをはなし手帳に貼って使用した。自分でイメージして伝えられるように、『順番だんだんシート+はなし手帳・言葉カード』→『はなし手帳・言葉カード』→手がかりなしと段階的に支援を減らした。



表面



宝物の位置を伝えるための各視点の名称を表す言葉の全てをカードにしたもの



## 考察

『順番だんだんシート』をどのように組み合わせれば建物、部屋、物、宝箱の全てのシートが見えるのかを考える活動を取り入れたことで、大きな場所(建物)から小さな場所(物)へとイメージする順番を理解することができたと考える。また、その活動を通して、建物、部屋、物、位置の順に言葉カードを並べることで、宝物の位置を順序よく伝えられたのではないかと考える。このことから、言葉を表出する際の思考過程を視覚的な教具に置き換えて操作することがイメージの具現化につながり、本グループの児童にとって情報を整理して伝えるために有効であったと考える。

一方で、児童が宝物の位置について正しい順番で友だちに伝えた時、その順番で伝えた理由を問うと「大きい(場所の名称)からだから」「(大小のイラストシートを異なる順番に重ねて)これは見えないね」などと、キーワードとなる言葉のみで答える姿が見られた。そのため、考えたことの言語化を通して知識の理解をより深め、学習したことが般化するよう、教師が教具を操作しながら「(建物名)が一番大きな場所だね」「次に大きな場所は(部屋名)だね」などと、思考過程をより具体的に言語化し、意味づける必要があったと考える。



## 実践事例

## 題材目標 『お宝探偵団!』で、場所や位置を聞き取ったり、伝えたりして宝物を集めよう

【学習指導要領の段階と内容】 小学部3段階「聞くこと・話すこと」  
**知・技** : イ(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報の関係について理解すること。  
**思・判・表** : Aウ 見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付たり、考えたりすること。  
**学 び** : 言葉のもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

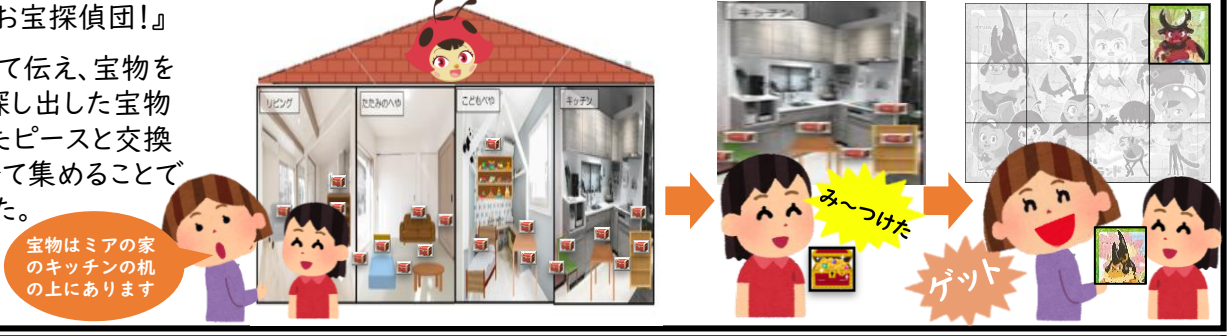
|              |  |
|--------------|--|
| <b>知・技</b>   | 『お宝探偵団!』で宝物を探す時、宝物の位置を伝えるためにイメージする順番がわかり、建物、部屋、物、位置の順に言葉カードをはなし手帳に貼る                             |
| <b>思・判・表</b> | 校内に隠した宝物の位置を伝える時、宝物の位置を特定するために必要な視点と言葉の順番を考え、伝え方を判断し、建物、部屋、物、位置の順で話したり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする |
| <b>学 び</b>   | 宝物の位置を繰り返し正しい順番で伝えたり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする   |

## 授業づくりの手順

- 前題材までの到達状況から表出像を列挙する
- 列挙した表出像を段階化する
- 段階化した表出像の一覧から、グループの在籍生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する
- 指導内容の範囲となった表出像に必要な知識及び技能を列挙する
- 各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために知識及び技能の内容を細分化・段階化する
- 細分化・段階化した知識及び技能の一覧と題材終了時までの表出像を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する
- 実態把握の結果から、中心として取り上げる知識及び技能を決定する
- 知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる
- 教材の仕組みを決定する
- 学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる
- 題材開始
- R研で毎時間の授業の評価・改善
- 題材終了
- 観点別評価の実施

## 【教材と仕組み】教材名『お宝探偵団!』

宝物の位置を友だちに話して伝え、宝物を探し出す活動を設定した。探し出した宝物は、好きなイラストを分割したピースと交換し、2人で協力して宝物を全て集めることでイラストが完成するようにした。



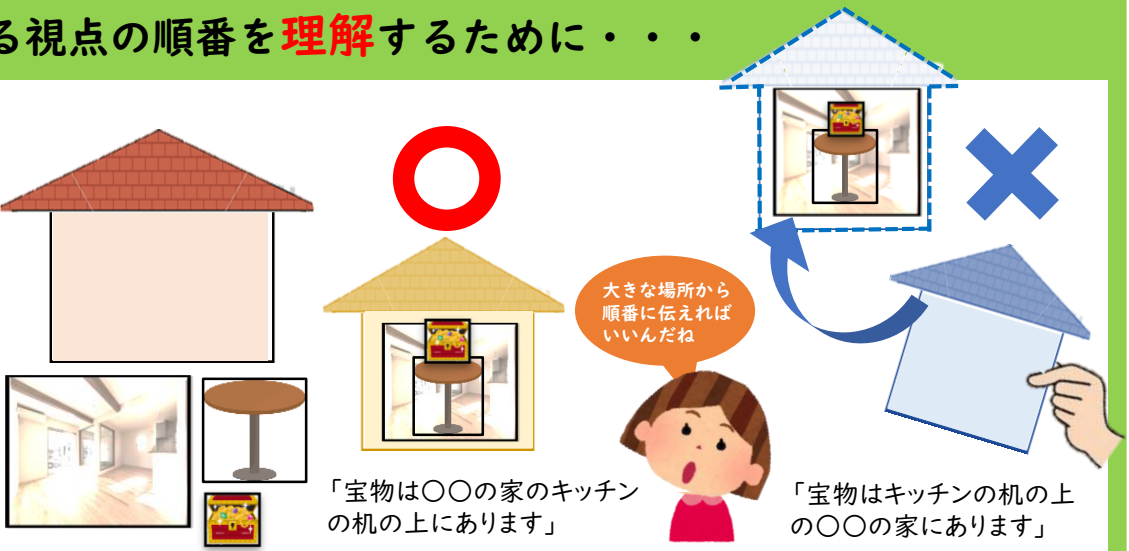
| 観点           | 評価  |
|--------------|---|
| <b>知・技</b>   | 宝物を宝さがしマップや宝さがしハウスに隠した後、その位置について「〇〇さんのいえ・リビング・ソファ・うえ」など建物、部屋、物、位置の順にそれらを表す言葉の言葉カードをはなし手帳に貼ることができた。  |
| <b>思・判・表</b> | 校内に宝物を隠した後、その位置について「宝物はポプラの女子トイレの棚の上にあります」など建物、部屋、物、位置の順にそれらを表す言葉の話すことができた。「宝物は中学部の椅子の下にあります」と部屋の視点が抜けたまま伝えた時に、友だちから「(部屋は)どこですか?」と問われると、「プレイルームです」と部屋の名称を答え、不足する視点についての問いに正しく答えることができた。 |
| <b>学 び</b>   | 宝物の位置について繰り返し正しい順番で伝えることができた。   |

## ポイント

### 伝える視点の順番を理解するために・・・

#### 『順番だんだんシート』

建物、部屋、物、位置を表す言葉の伝える順番を考慮できるように、それらの言葉が表す物同士の実物の大小関係を表したイラストシート。大きなイラストシートから順に重ね合わせることで、伝える視点の順番が判断できるようにした。

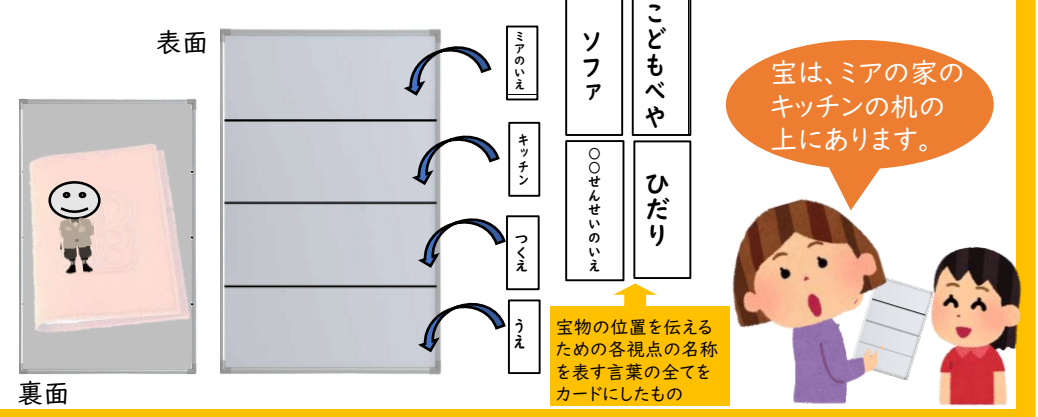


## ポイント

### 伝える視点の順番を整理して話せるように・・・

#### 『はなし手帳・言葉カード』

宝物の位置を伝えるために必要な視点とその順番を整理できるように、各視点に含まれる言葉を視覚化した言葉カードを、はなし手帳に貼って使用した。自分でイメージして伝えられるように、『順番だんだんシート+はなし手帳・言葉カード』→『はなし手帳・言葉カード』→手がかりなしと段階的に支援を減らした。



## 考察

『順番だんだんシート』をどのように組み合わせれば建物、部屋、物、宝箱の全てのシートが見えるのかを考える活動を行ったことで、大きな場所から小さな場所(物)へと順にイラストシートを重ねればよいことに気づいたと考える。その活動を通して、建物、部屋、物、位置の視点を組み合わせる時には、大きな場所から小さな場所(物)へと順にそれらをイメージしていけばよいことがわかり、建物、部屋、物、位置の順に言葉カードを並べたり、話して伝えられたりしたのではないかと考える。言葉を表出する際の思考過程を視覚的な教具に置き換えて操作することは、本グループの児童にとってイメージが具現化され、大きな場所から小さな場所(物)へと順に情報を整理して伝えることの理解の深まりにつながったと考える。

一方で、児童が宝物の位置について正しい順番で友だちに伝えた時、その順番にした理由を問うと「大きい(場所の順)からだから」「(大小のイラストシートを異なる順番に重ねて)これは見えないね」等、キーワードとなる言葉のみで答える姿が見られた。そのため、本題材で扱った場面以外にも学習したことが般化できるように、教師が「(建物名)が一番大きな場所だね」「次に大きな場所は(部屋名)だね」など、思考過程をより具体的に言語化して意味づけるようにしたい。



## 実践事例

**題材目標** 『お宝探偵団!』で、場所や位置を聞き取ったり、伝えたりして宝物を集めよう

**【学習指導要領の段階と内容】**

**知・技** : 小学部3段階イ(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報の関係について理解すること

**思・判・表** : 小学部3段階Aウ 見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付たり、考えたりすること

**学び** : 言葉のもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う

|       |  |
|-------|--|
| 知・技   | 『お宝探偵団!』で宝物を探す時、宝物の位置を伝えるためにイメージする順番がわかり、建物、部屋、物、位置の順に言葉カードをはなし手帳に貼る                             |
| 思・判・表 | 校内に隠した宝物の位置を伝える時、宝物の位置を特定するために必要な視点と言葉の順番を考え、伝え方を判断し、建物、部屋、物、位置の順で話したり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする |
| 学び    | 宝物の位置を繰り返し正しい順番で伝えたり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする   |

## 授業づくりの手順

前題材までの到達状況から表出像を列挙する

列挙した表出像を段階化する

段階化した表出像の一覧から、グループの在籍生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する

指導内容の範囲となった表出像に必要な知識及び技能を列挙する

各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために知識及び技能の内容を細分化・段階化する

細分化・段階化した知識及び技能の一覧と題材終了時までの表出像を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する

実態把握の結果から、中心として取り上げる知識及び技能を決定する

知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

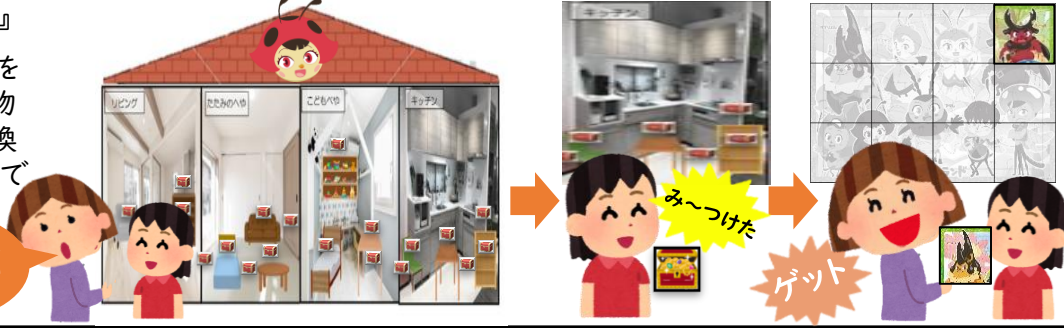
観点別評価の実施

## 考察

**【教材と仕組み】** 教材名『お宝探偵団!』

宝物の位置を友だちに話して伝え、宝物を探し出す活動を設定した。探し出した宝物は、好きなイラストを分割したピースと交換し、2人で協力して宝物を全て集めることでイラストが完成するようにした。

宝物はミアの家のキッチンの机の上にあります



| 観点    | 評価   |
|-------|--|
| 知・技   | 宝物を宝さがしマップや宝さがしハウスに隠した後、その位置について「〇〇さんのいえ・リビング・ソファ・うえ」など建物、部屋、物、位置の順にそれらを表す言葉の言葉カードをはなし手帳に貼ることができた。   |
| 思・判・表 | 校内に宝物を隠した後、その位置について「宝物はポプラの女子トイレの棚の上にあります」など建物、部屋、物、位置の順にそれらを表す言葉を話すことができた。「宝物は中学部の椅子の下にあります」と部屋の視点が抜けたまま伝えた時に、友だちから「(部屋は)どこですか」と問われると、「プレイルームです」と部屋の名称を答え、不足する視点についての問いに正しく答えることができた。 |
| 学び    | 宝物の位置について繰り返し正しい順番で伝えることができた。  |

**ポイント**

### 伝える視点の順番を理解するために・・・

#### 『順番だんだんシート』

建物、部屋、物、位置を表す言葉の伝える順番を考えることができるように、それらの言葉が表す物同士の実物の大小関係を表したイラストシート。大きなイラストシートから順に重ね合わせることで、伝える視点の順番が判断できるようにした。

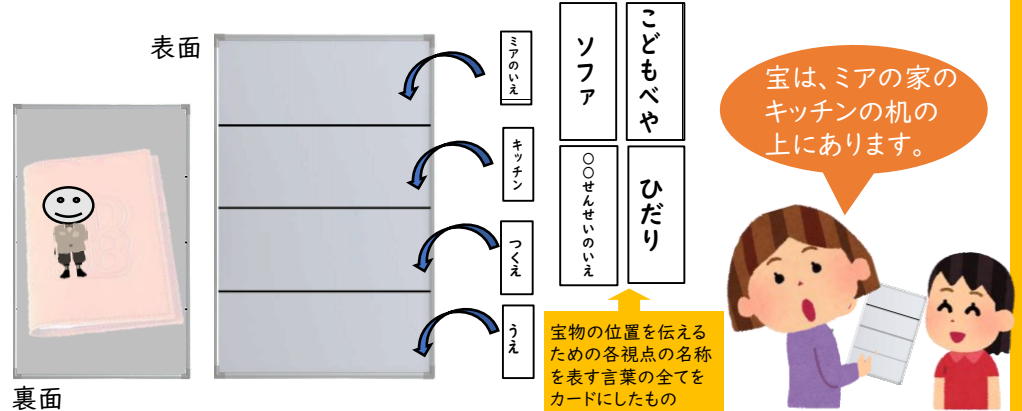


**ポイント**

### 伝える視点の順番を整理して話せるように・・・

#### 『はなし手帳・言葉カード』

宝物の位置を伝えるために必要な視点とその順番を整理できるように、各視点に含まれる言葉を視覚化した言葉カードを、はなし手帳に貼って使用した。自分でイメージして伝えられるように、『順番だんだんシート+はなし手帳・言葉カード』→『はなし手帳・言葉カード』→手がかりなしと段階的に支援を減らした。



『順番だんだんシート』をどのように組み合わせれば建物、部屋、物、宝箱の全てのシートが見えるのかを考える活動を行ったことで、大きな場所から小さな場所(物)へと順にイラストシートを重ねればよいことに気づいたと考える。その活動を通して、建物、部屋、物、位置の視点を組み合わせる時には、大きな場所から小さな場所(物)へと順にそれらをイメージしていけばよいことがわかり、建物、部屋、物、位置の順に言葉カードを並べたり、話して伝えられたりしたのではないかと考える。言葉を表出する際の思考過程を視覚的な教具に置き換えて操作することは、本グループの児童にとってイメージが具現化され、大きな場所から小さな場所(物)へと順に情報を整理して伝えることの理解の深まりにつながったと考える。

一方で、児童が宝物の位置について正しい順番で友だちに伝えた時、その順番にした理由を問うと「大きい(場所の順)からだから」「(大小のイラストシートを異なる順番に重ねて)これは見えないね」等、キーワードとなる言葉のみで答える姿が見られた。そのため、本題材で扱った場面以外にも学習したことが般化できるように、教師が「(建物名)が一番大きな場所だね」「次に大きな場所は(部屋名)だね」など、思考過程をより具体的に言語化して意味づけるようにしたい。



## 実践事例

題材目標 『お宝探偵団!』で、場所や位置を聞き取ったり、伝えたりして宝物を集めよう

### 【学習指導要領の段階と内容】

知・技：小学部3段階イ(ア)物事の始めと終わりなど、情報と情報の関係について理解すること。

思・判・表：小学部3段階Aウ見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付たり、考えたりすること。

学び：言葉のもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う

知・技

『お宝探偵団!』で宝物を探す時、宝物の位置を伝えるためにイメージする順番がわかり、建物、部屋、物、位置の順に言葉カードをはなし手帳に貼る

思・判・表

校内に隠した宝物の位置を伝える時、宝物の位置を特定するために必要な視点と言葉の順番を考え、伝え方を判断し、建物、部屋、物、位置の順で話したり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする

学び

宝物の位置を繰り返し正しい順番で伝えたり、不足している視点についての問いに正しく答えたりする

## 授業づくりの手順

※表出像…思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する児童生徒の姿

教材では同一教材を用いて、【聞くこと・話すこと】のうち【聞くこと】を中心として扱うグループと、【話すこと】を中心として扱うグループとに分かれて学習を行った。

【聞くこと】を中心としたグループでは、建物、部屋、物、位置の視点を含んだ宝物の位置を示す指示から必要な聞き取り、宝物を探し出す活動に取り組んだ。指示に含まれる言葉と対応するイラストカードを「建物」「部屋」「位置」の視点でホワイトボードに貼り分けることで、指示の内容を視覚的に捉えることができ、指示に含まれる視点を判断したり、必要な情報を整理したりすることの理解につながったと考える。【話すこと】を中心としたグループでは、建物、部屋、物、位置を表す言葉を順序よく話して相手に宝物の位置を伝える活動に取り組んだ。

|   |
|---|
| 各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために知識及び技能の内容を細分化・段階化する             |
| 細分化・段階化した知識及び技能の一覧と題材終了時までの表出像を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する |
| 実態把握の結果から、中心として取り上げる知識及び技能を決定する                         |
| 知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる                           |
| 教材の仕組みを決定する   |
| 学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる                              |
| 題材開始  |
| R研で毎時間の授業の評価・改善   |
| 題材終了  |
| 観点別評価の実施  |

学び

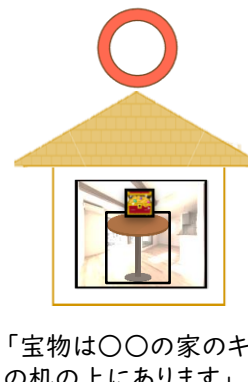
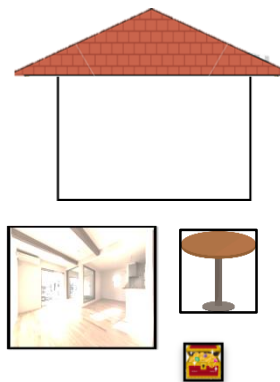
宝物の位置について繰り返し正しい順番で伝えることができた。



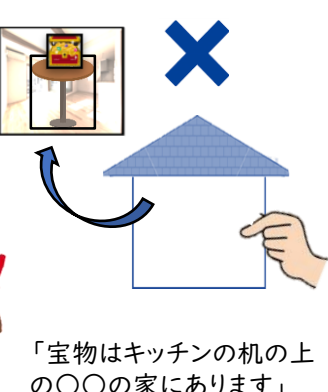
### 伝える視点の順番を理解するために…

#### 『順番だんだんシート』

建物、部屋、物を表す言葉の伝える順番を考えることができるように、それらの言葉が表す物同士の実物の大きさの関係を踏襲したイラストシート。大きなイラストシートから順に重ね合わせることで、伝える視点の順番が判断できるようにした。



「宝物は〇〇の家のキッチン  
の机の上にあります」



「宝物はキッチンの机の上の  
〇〇の家にあります」



### 伝える視点の順番を整理して話せるように…

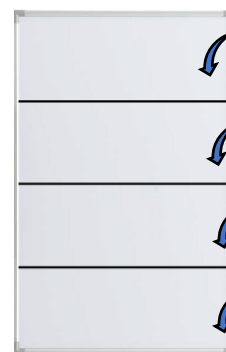
#### 『はなして帳・言葉カード』

宝物の位置を伝えるために必要な視点とその順番を整理できるように、各視点に含まれる言葉を視覚化した言葉カードを、はなし手帳に貼って使用した。



裏面

表面



宝物の位置を伝えるための各視点の名称を表す言葉の全てをカードにしたもの

